

山本靖氏

渡辺康平氏

紫和雅史氏

松原英樹氏

高原陽一氏

座談会

『緊急特集! 8支部助け合いボード』 ～コロナで一社も潰さない～

【出席】高松第8支部

紫和 雅史氏
(支部長)

山本 靖氏
(副支部長)

高原 陽一氏
(直前支部長)

渡辺 康平氏
(支部だより担当)

【司会】広報・情報化委員会

松原 英樹氏
(編集長)

『助け合いボード』とは
司会 本日はお忙しい中をありがとうございます。早速ですが、香川同友会がコロナ禍対策として「一社も潰さない」という宣言を行っているのですが、それに伴い高松第8支部(以下、8支部)では支部を挙げて『助け合いボード』という取組がスタートしたそうですね。取組の詳細を会員の皆さんに知っていただくために今回の特集を企画しましたので、よろしくお願ひします。

では支部長の紫和さんから、『助け合いボード』とはどういうものかお聞かせください。

紫和 コロナ禍で困っている会社は結構あると思います。ただ、何で困っているかは各社それぞれで異なるように感じました。そこで8支部の会員企業に対して何かしらできる事があるのではないかと考え、「コロナ禍」の切り口で会員それぞれが困っている会社に対して出来る事を一覧にして共有しようというのが、今回の『助け合いボード』です。

わかりやすく言うと、例えば我が社のサービスや商品が役立つのであればと、普段は有償のところを今回は無償でお手伝いとか、あるいは我が社の新しい企画に参加しませんか等々のメッセージを支部の中で拾い集めて一つのボードにする企画です。

司会 わかりました。その『助け合いボード』のスタートはいつからですか。

紫和 6月から『助け合いボード』に載せませんか?という呼びかけ、いわゆる募集を開

始しています。具体的なことは『支部だより』の7月号に掲載しています。

ボードづくりのきっかけは同友会の「一社も潰さない」

司会 どうして『助け合いボード』を作ろうと思ったのですか。そのきっかけは？

紫和 同友会全体の「一社も潰さない」宣言に対して、「支部それぞれで出来る事をしてください」という要請があったと思います。

そんな中で支部の会員さんから、本当に困っている会社がある。自分の会社だったら例えばこんなことが出来るので、それを他の会員さんに伝えてほしいという声が出てきました。

それを受けて、支部としてどういうことが出来るのかを考えるため、6月の役員会で「コロナ禍で困っている会社に対して8支部は何をするか」というテーマでテーブル討論をしました。そこで出た様々な案の中

から『助け合いボード』を選び、始まったという経緯です。

司会 そうですか。8支部の会員さんの

中でも困っている業種や業態があると思うのですが、そういう声はあがってきていますか？ 高原さんいかがでしょう。

高原 そのあたりの事情は、支部の中でも私が一番よく知っているように思います。去年支部長だったので、持続化給付金や雇用調整助成金を申請した会社に、同友会からの見舞金とコロナレポートを持参しました。100社のうちの20数社が申請したと記憶しています。その際、どんな状況かを話しても

らったのですが、売上が8割減のところもありました。業種については飲食店だけでなく、イ



ベントや学会等を企画しているところや観光向けのパッケージを製作しているところ等の打撃は想像以上に大きかったです。

司会 支部長だった高原さんが会員訪問で会員企業の実情を知り、役員会でそれを説明したことで、渡辺さんから「うちの会社ではこんなことが出来ますよ」という取組をしたらどうか」という意見を出したそうですね。

渡辺 そうです。私のところは仕事柄コロナ禍で売上が伸びているんですね。それで自分が出ることをし

てお返しができる

できればと思ったわけですが、何か形として残してもらい、それをステップにして苦境を脱してもらえたらということなんです。うちの場合は商品の撮影がメインですが、それをチラシやホームページに使い、そこから収益を上げていただけたらと考えています。

まずは今、困っている会員さんにこちらが提供できるものを使っていただくことからのスタートだと思います。

ます。私はこんなことが出来ずというのを支部長が『助け合いボード』の形でまとめてくれたわけです。

今、自分たちに何が出来るのか。そこにフォーカスをおいて討論

司会 わかりました。ただその前に役員会のグループ討論でどんな話し合いがあったのか、山本さんお願いします。

山本 参加者は15、16人だったと思います。討論の中身ですが、殆どの会員さんが内容は異なってもコロナ禍の影響を多かれ少なかれ受けていると思うが、それを詳細に把握するのは難しい。そして、何をやるのかではなく、自分たちに何が出来るのかというところにフォーカスをおいて討論しました。ただ、本当に困っている人のところへ入っているのはとても難しい問題なので、まずは自分たちが出来る情報を発信して、それを使っていただくことが今

のところは最良の方法ではないかという話になりました。

紫和 取組は始めた以上続けることが大事なので、自分たちに何が出来るのかを

発信することで、長期的なものになるのではないかと考えました。

グループ討論自体は、声かけは支部としてという意図で始めたのですが、『助け合いボード』の案だけが出たのではなく、会員訪問の強化や前年度の予算の余剰金を見舞金に等々、様々な案が出ましたが、経営に対して少しでも役に立つ可能性があり、会員さんが何を求めているかわからないということもあって、最終的に『助け合いボード』の形にまとまりました。

司会 確かにそれぞれ



分たことに何が出来るのかを

発信することで、長期的なものになるのではないかと考えました。

グループ討論自体は、声かけは支部としてという意図で始めたのですが、『助け合いボード』の案だけが出たのではなく、会員訪問の強化や前年度の予算の余剰金を見舞金に等々、様々な案が出ましたが、経営に対して少しでも役に立つ可能性があり、会員さんが何を求めているかわからないということもあって、最終的に『助け合いボード』の形にまとまりました。

のこととなる
と、正直見え
難いものがある
りますよね。
そういう意味で
私自身
会員として
『助け合い
ボード』は、

高原 グループ討論をして分かったことは、みんな出来る事はバラバラで「点」という事でした。だったら、各社持っているスキルという「点」をまとめて「面」に出ればいいのではないかと思いましたが。

そして、『支部だより』が一番多くの会員さん

が見てくれる可能性が高い
と思いい、『助け合いボード』
を掲載しました。しかし、それ
で何かが劇的に変わると
か、どこかの会社の業績が
改善するかとというと、それ
は現実的に難しいと思いま
す。それでも支部年間テーマ
である「やってみよう！」
とはじめる事が大事だと思
ったので、支部長の呼び
かけでみんなが協力してい
こうという意見でまとまり
ました。

紫和 今はボードとして作ったのですが、これで終わりにするのではなく、これからいろんな活用をし



ていきたいと考えています。

例えば、グループの中で『助け合いボード』は更新していくことになっているので、その中でコミュニケーションを促進してくれたらいいなと思っています。

司会 スタートしたばかりなので結果はまだ出ていないと思いますが、これを作ることによって支部の中で気持や行動の変化はありますか？

山本 最近はコロナが話題の例会が少なくなってきたのですが、渡辺さんが提案して支部で動くことで、困っている会員さんがこの情報を見て活用してもらえれば一番いいと思います。

まだそこまでは至りませんが、役員同士でボードを作り、それが会員さんに広がっていくという、一体感が持てるのが非常に心強いと感じています。

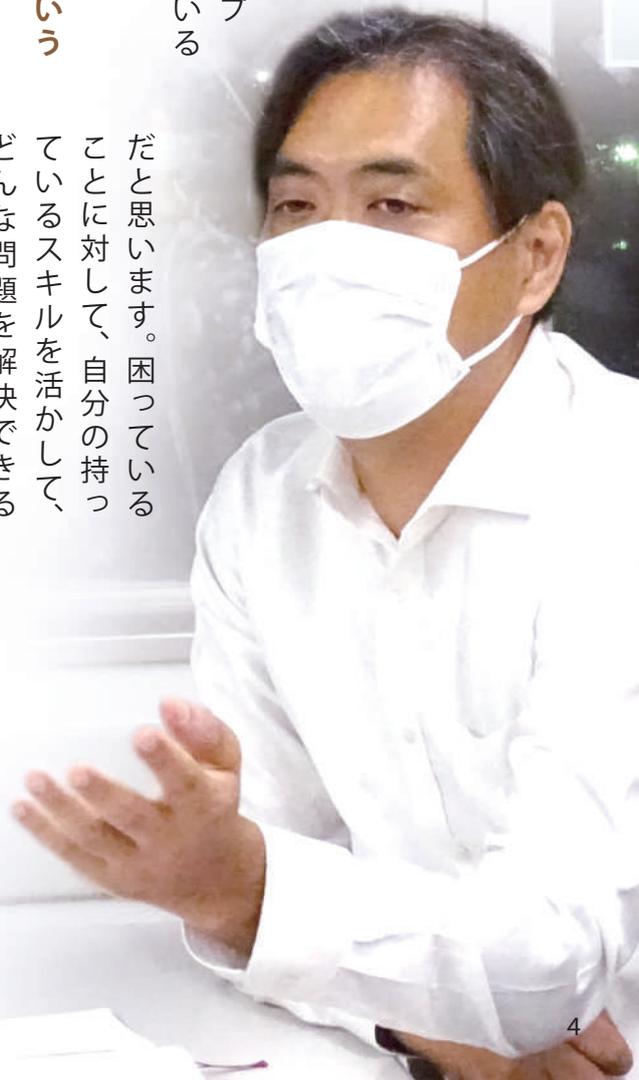
紫和 役にたきたいという会員企業がいくつかあります。いい企画だと言って率先して申し込んでくれると

ころがあったり、そういう企画をやっているんだったら、うちの会社だとこんなことが出来ますとか、力になりたいという声は普段の活動にプラスしてより広がっているような気がします。

本場に助けてほしいという声を拾うのは難しい

司会 助けてほしいという声が出てくるのはわかりますが、本場に助けてほしいという声を拾うのは、高原さんのお話のように一社一社訪問していくことになるのでしょうか。

高原 それに関しては正直限界があるのは確かです。ただ、自分は何が出来るかを考えることは、経営と同じのような気がします。つまり「誰のどんな問題を解決するか？」



だと思っています。困っていることに対して、自分の持っているスキルを活かして、どんな問題を解決できるか？一人ひとりが考えることに意味があると私は思っています。

それから、何か困ったときは問題を解決してくれる会社が同友会内にはないか？同じような商品やサービスを受けるのであれば、そのような会社が同友会内にな

いか？人を大切にできる経営者の会社から買う、同友会経済圏づくりのきっかけになっただけいなとも思っています。

今回『助け合いボード』に協力していただいた会員さんは、志が高い人だと思っ

司会 そうですね。個々でみると異業種の集まりですが、志は一緒なんですよ。

渡辺 私はスタジオを築き上げてきましたが、これも同友会の経済圏内だと思います。たまたまフェイスブックにこういう箱を探していますと投稿したとき、5社が名乗り出てくれたのですが、選ばせていただいたところが、同友会の会員

さんで、そこから発展して現在に至っています。動画の制作等、会員さんからの仕事が結構あります。

司会 同友会には仲間がいるので、そこでしっかり悩みを聞いて、ヒントをもらって経営に生かすことと、絆を強めていくことで地域全体が盛り上っていいほしいところがあるの、みんなが繋がっていいこと、はともいいうような気がします。

最後に紫和さんに、今回の特集を読んでくださる会員さんに向けて一言お願いします。

紫和 ネーミングを『助け合いボード』にしましたが、助ける、助けられるという関係というよりは、先ほど話にあった同友会経済圏もそうです、基本的に同友会会員同士で共存、共栄を目指していきましようという考え方でやっていきたいと思っています。

今回をきっかけに他の会員さんが何をビジネスとし

ているのかが知れたり、あるいはそれを聞く機会ができた等、コロナは関係なくこれから長期的に会社を発展させる

きっかけに、それぞれの会社になっていけばいいなと思いますし、もちろんコロナ禍で苦しんでいる会社にとっては、何かしらの助けになっていけばと考えます。これが同友会の仲間づくりに貢献し、良い会社に繋がっていったらと思います。

司会 この流れが8支部だけでなく、同友会全体を巻き込んで『助け合いボード』が広がり、本当の意味での「一社も潰さない」同友会になればと思っています。

本日はどうもありがとうございました。



座談会を終えて

編集部よりメッセージ

今回、高松第8支部の『助け合いボード』のお話しを伺いましたが、「自主・民主・連帯」を実践する素

晴らしい取り組みでした。

他支部でも「DOYUEATS」をはじめ、コロナ禍に苦しんでいる仲間を助ける取組や、会員同士の関係を絶やさないための様々な取組もされています。

このような助け合いの取組を全ての支部、全ての会員皆で考え、アイデアを出し合い、もっと多

くの取組や企画が生まれ、やがてその点が一つの大きな面になった時、はじめて本当の意味での「一社も潰さない」に向けて香川同友会が動き出すのだと思います。

まずは皆で何ができるかを考え、支部で語り合い、共にいきぬくための一歩を踏み出す事が大切です。

貴方や貴方の支部では何ができますか？

